

4

基本的考え方及び多摩区の実施状況

日 程	団体等の名称	備 考
平成31年 4 月 8 日	多摩区民活動・交流センター運営委員会	
平成31年 4 月11日	多摩区民生委員児童委員協議会	理事総会
平成31年 4 月17日	多摩区まちづくり協議会	運営委員会
平成31年 4 月22日	多摩区・3大学連携協議会	
平成31年 4 月23日	多摩区社会福祉協議会	職員への個別説明
平成31年 4 月25日	多摩区老人クラブ連合会	総会
令和元年 5 月16日	生田地区町会連合会	総会
令和元年 5 月20日	稲田地区町会連合会	総会
令和元年 5 月27日	多摩区まちづくり協議会	総会
令和元年 5 月30日	園長・校長連絡会	
令和元年 6 月 4 日	クスリのナカヤマ	
令和元年 6 月24日	生田八日会	
令和元年 6 月25日	多摩区地域教育会議	総会
令和元年 7 月 2 日	多摩区社会福祉協議会、多摩区民生委員児童委員協議会	会長への個別説明
令和元年 7 月 6 日	多摩区PTA協議会	運営委員会
令和元年 7 月 8 日	多摩区民生委員児童委員協議会	理事会
令和元年 7 月12日	多摩区町会連合会	役員会
令和元年 7 月18日	川崎生田ライオンズクラブ	
令和元年 7 月26日	多摩区民活動・交流センター全体会議	
令和元年 7 月31日	多摩区指定避難所合同会議	
令和元年 8 月29日	多摩区管理運営協議会・公園緑地愛護会合同連絡会	

5

多摩区におけるソーシャルデザインセンターの開設案について (中間とりまとめ) に対する意見募集の結果について

○概 要

多摩区役所では、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、地域での新しい活動や価値を生み出す基盤となる「ソーシャルデザインセンター」（以下「SDC」といいます。）の今年度中の開設に向けて、検討を進めています。平成31年4月に公募委員による「これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区区域レベル取組検討会」（以下「検討会」といいます。）を立ち上げ、月2回の会議や打合せを行い、「市民創発」や「市民主体の運営」といった視点を大切にして議論を重ねながら、多摩区として望ましい「SDC」の開設に向けた検討を進めてきました。

このたび、検討会での意見を踏まえ、多摩区におけるSDCの開設案の中間とりまとめを行いましたので、「SDCの開設に向けた多摩区フォーラム」（以下「多摩区フォーラム」といいます。）を開催するとともに、インターネット等を通じた意見募集を行いました。

その結果、多摩区フォーラムではグループトークに参加いただいた77名の方から480件の御意見・質問を、インターネット等を通じた意見募集では11通・56件の御意見をいただきましたので、御意見等の内容とそれに対する区の考え方を次のとおり公表します。

○意見募集の概要

(1) 多摩区フォーラム

募集の周知方法	・多摩区ホームページ ・市政だより多摩区版（7月1日号） ・多摩区役所等でのチラシ配布
会場、日時、 参加人数	多摩区役所 令和元年7月28日（日）13:30～16:30 85人（うちグループトーク参加者は77人）

(2) インターネット等を通じた意見募集

意見の募集期間	令和元年7月29日（月）～8月30日（金）
意見の提出方法	郵送、持参、FAX、電子メール
募集の周知方法	・多摩区ホームページ ・市政だより多摩区版（8月1日号） ・多摩区役所、生田出張所、多摩図書館で資料の閲覧 ・多摩区フォーラムでの案内
結果の公表方法	・多摩区ホームページ

3 結果の概要

(1) 多摩区フォーラム

参加者・意見件数	77 人・480 件
----------	------------

(2) インターネット等を通じた意見募集

意見提出数（意見件数）		11 通（56 件）
内訳	郵送	0 通（0 件）
	持参	0 通（0 件）
	F A X	2 通（4 件）
	電子メール	9 通（52 件）

○御意見の内容と対応

開設案（中間とりまとめ）の内容に関して、SDC の基本的機能と具体的な取組、運営についての考え方を中心に、多くの御意見・御質問が寄せられました。いただいた御意見等は検討会で共有しながら、SDC の骨格を示すために必要な内容を開設案へ反映しました。また、SDC が担うことが望まれる具体的な取組のアイデアも多く寄せられましたので、今後 SDC の運営組織においても取組の参考とできるよう、いただいた御意見のすべてを資料編に掲載しました。

御意見に対する区の考え方の区分

- A 御意見を踏まえ、開設案に反映したもの
- B 御意見の趣旨が開設案に沿ったものであり、御意見を踏まえて取組を推進するもの
- C 今後の取組を進めていく上で参考とするもの
- D 開設案に対する質問・要望の御意見
- E その他

御意見の件数と対応区分

項 目	A	B	C	D	E	計
「1.『これからのコミュニティ施策の基本的考え方』に基づく多摩区における検討」に関すること	17	1	12	2	2	34
「2. 多摩区を取り巻く状況」に関すること	2	8	11	2	0	23
「3. 多摩区における SDC の開設理念」に関すること	10	8	10	0	0	28
「4. SDC の基本的機能と具体的な取組について」に関すること	18	124	133	30	8	313
(1) 多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る	4	16	14	3	1	38
(2) 多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする	4	18	7	2	1	32
(3) 地域課題の解決を目指した社会実験の展開	4	12	20	5	1	42
(4) 地域課題への専門的支援	1	8	11	3	0	23
(5) 地域で人を育てる仕組みをつくる	4	11	14	2	0	31
(6) 「まちのひろば」への支援	0	19	23	5	0	47
(7) みんなに届く情報発信	0	16	9	2	1	28
(8) 多摩区内の人と人をつなぐ	1	14	8	2	3	28
(9) 多摩区の地域特性を活かした取組	0	7	18	1	0	26
(10) (1)～(9) 以外に関する御意見	0	3	9	5	1	18
「5. 開設場所」に関すること	6	3	22	3	0	34
「6. 運営についての考え方」に関すること	9	7	48	11	0	75
「7. 今後の検討の進め方」に関すること	7	0	12	6	0	25
その他コミュニティ施策に関すること	0	0	1	0	3	4
合 計	69	151	249	54	13	536

※ 1 通の意見書の中に複数の御意見が含まれていた場合は、項目に合わせて分割・整理するとともに、長文の御意見は必要に応じて要約しています。

○御意見の要旨と区の方考え方

「1.『これからのコミュニティ施策の基本的考え方』に基づく多摩区における検討」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
1	良いことを書いてあるけどどうやって実現するのか。	E
2	何をを目指しているのか。具体的に何をするか。枠組みがよくわからない (同趣旨ほか2件)	A
3	もっと団体の見学とか話を聞く機会を設けながら進めるべきである。	A
4	SDCは市民活動支援センターとどう違うのか。	D
5	川崎市は新しい公共施設は作らないとのことだが、どう整合性をとるのか。	D
6	SDCと市・区施設の関係性を明確化すべきである。	C
7	行政がフォローする部分と検討会で企画する部分の切り分けを明確にする必要がある。	C
8	市長の肝いりの「地域包括ケアシステム」と同じような施策になっていて、どの様に取り組んでいけばいいのか、市民は分からないのではないかと。施策推進の各局の横の連携を密にして行うべきである。 (同趣旨ほか10件)	A
9	価値を創造することと、社会の劣化を防止することは相反するのではないかと。	C
10	多摩区には数多くのネットワーク活動団体がある。そのすべてを網羅した更なるネットワークになれば素晴らしい。	B
11	SDCの他希望のシナリオの具体的な計画はどうなっているか。	E
12	本市は、「個別支援の強化」と「地域力の向上」を図っているが、活動が広がっていない現状であり、コミュニティ施策として地域コミュニティの再構築・強化を図り、互助活動組成を支援することで「地域包括ケアシステム」の構築を支え、介護給付費の増加傾向に歯止めを図ることが急務	A
13	今回、新たにSDCを導入する目的がわかりづらい。「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」における区域レベルの取組を推進するため「多摩区区域レベル取り組み検討会」を設置したとあるが、従来の「区民会議」「まちづくり協議会」の設置目的が明確であったのに対して今回の新しい施策は「何を目的としているのか」具体的でない。また、これまで12年間続けられた「区民会議」や「まちづくり協議会」等の活動を行政サイドでどのように評価して、何をさらに改善しようとしているのか明確に示してほしい。	A
14	「希望のシナリオ」は、どの様に進めれば実現できるのか、という実現性の検討が不足している。市レベル以外、各区に任せる、という方針となっており、結局、各区に対して、どの様に実現していくのかを検討するところから丸投げしているのと同じ印象だ。今回、多摩区のSDC開設案の検討は、「市民主導で」と言いながら、区役所が事務局として動いていた。ただ、議論の進め方は「市民任せ」とした結果、何をどの様に検討していけば良いかを分かっている人材がおらず、結局、開設に向けた検討にならなかった。開設案(中間とりまとめ)と言いながら、実際には、検討会に参加していた市民が、市民の立場で、SDCに欲しい機能を出し合い、それをまとめただけとなっており、良く言っても市場のニーズを整理したに過ぎない。	C
15	多摩区だけの取り組みと考えがちだが、「希望のシナリオ」的なワークショップや取り組みは定期的に川崎で横断的に継続してほしい。川崎は多様性を中心にした考え方をしていても、多摩区自身は地元に着目し過ぎて部分があり、ほかの区との交流もこれから盛んになってほしいと思う。多摩区はそれぞれのコミュニティが横断的に動いているように見えない時がある。	C
16	今回、フォーラムを開催され、多くの方の話を聞いたのは非常に有意義であったと思うが、参加された方からは、全体像が分かるようにしないと、いきなりSDCと言われても何を話して良いか分からない、きれいにまとまっているように見えるが、このまま進んでよいのかこの先が心配、コミュニティ施策を考える上で、みまもり支援センターの人や、地域包括の人がいないのは何故?といった声があった。	C
17	現状は、SDC立ち上げが目的になっている感が否めない。今はごく一部の人が会議室に集まって話をしていて、本当に必要なことが見えていない。今、仮にSDCが立ち上がっても市民団体と繋がっていない、実施するにも材料(調査不足)がそろっていないので、ニーズに合った機能を実現するのは難しい。(=まち協の反省点)	C
18	今後の進め方について、今後もフォーラムのようなイベントを開催し、市が提案するコミュニティ施策の周知と共に、今後の多摩区のコミュニティ施策について区民が考えるきっかけ作りの場が必要だと思う。	C
19	中間支援がミッションであるなら市民活動団体、自治体・町会等と繋がり、課題やニーズの調査を実施し、弱み強みを分析した上で、多摩区に必要とされる機能の優先順位をつけた方がよいと思う。	C

No.	意見・質問要旨	区分
20	焦らず、一度リセットしてコンサルを入れて、市民団体や町会・自治会と信頼、繋がりを築くと同時に調査・分析をすることからスタートした方が、遠回りかもしれないが後々のためには良い結果が生まれると思う。そのためには役所内が繋がる必要があると思う。	C
21	色々読んでみて、今回のSDCの企画は、いいと思うが、まずいところがある。検討委員の中に、特定の組織の者が多く入り込んでいる。これがまずいのは、特定の組織ごと設立メンバーになり、特定の目的で多数で仕切ろうとしていること。多摩区の住民以外が検討委員に入っている。これがまずいのは、特定の組織ごと設立のメンバーになり、特定の目的で仕切ろうとしていること。これを是正ください。他は大変結構と思います。これを除き市役所はよくやっていると思う。	C
22	実際の運営について、スモールスタートで始めるという話が、当初よりしきりに言われているが、経営用語としてのスモールスタートとは、事業を始めるにあたって経営計画を綿密に行い、その結果として出てくる実行案の一つです。経営計画なくして、スモールもミドルもラージもありません。SDCを立ち上げるためにまずやるべきことは、次を可及的速やかに行うこととなります。① 運営組織の倫理規範の策定と規約概要の起草、② 運営に求められる志向と機能の確認、③ 運営の経営計画の立案、④ 運営組織の検討、⑤ 運営開始の時期・方法、各点を議する運営準備会議を行い、決定後に実行していくことになると思われます。	C

「2. 多摩区を取り巻く状況」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
23	緑・多摩川・梨・生田緑地の文化はPRになる。	B
24	多摩区の人口動向を考慮する必要がある。	B
25	父親を地域に出てもらおう仕組み（現状を知ってもらう）必要である。	B
26	多摩区の強み・弱みを分析する必要がある。	B
27	再開発の今が逆にチャンス。新たなことができるかもしれない。	C
28	区画整理が行われているが、区域内の商業地域内に単なるワンルームばかりになっている。	C
29	ミュージアムや緑地はとても有名だが、街の事は知らない人が多い。	C
30	多摩区を取り巻く現状を広く区民へ公開することが必要である。	A
31	多摩区の強み・魅力を生かす手段とは何か。	D
32	現在の多摩区において、何が一番問題視されているのか、最も改善すべき点が何か疑問である。	D
33	多摩区は生田緑地、多摩川等自然豊か、高齢化も一部進んでいる、登戸区画整理事業で商店街が変化している。	B
34	登戸・向ヶ丘遊園周辺の未来像が定まっていない。	C
35	多摩区のイメージが暗い。	C
36	「問題」「課題」の抽出・整理→「解決策」「目的」「手段」etcの検討の順で考えるべきである。	C
37	地域活動に参加しやすくする工夫が必要である。	B
38	少子化と高齢化をキーとした施策の展開が必要である。	B
39	市民活動は活発だが各々トンガリすぎてバラバラとなっている。	C
40	都内に勤務している人が市民活動に参加しにくい。	C
41	職住接近、地元の仕事作りで若い人が働ける地域になるとよい。	C
42	多摩区を取り巻く状況、開設理念、基本機能の中に障害者について記載されていない。	A
43	都内に働きに出ている人が半数近くいて、夜に戻ってくる人口帯が多く住んでいる区であるので、夜に戻ってくる人たちの活用も考えてほしい。昼間、市民活動で活発な区であるだけに、夜間都内で働く人たちの知恵を取り入れることで町は活性化できると考える。人口が少ない中で夜間活動する人たちが、まちを好きになっていく過程を都心部だからこその取り組み方ができればと思う。	B
44	市民活動家たちは、「若い人が来ない」と嘆くことがあるが、本当にウェルカムなのであれば、今のよう状況は生まれないし、どんな人でも受け入れられるSDCあってほしいと思う。多摩区は3大学を抱える区だが、地域住民には「まちづくりに興味ある大学生」だけをターゲットに絞っているように見えている。向ヶ丘遊園などでアルバイトしている大学生や下宿で住んでいる学生もいるはずで、そういう人たちにも気づいてもらえるようなまちづくりであってほしい。	C
45	多摩区を取り巻く状況の中に障害者について記載されていない。	C

「3.多摩区における SDC の開設理念」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
46	SDC の機能を明確化すべきである。	A
47	人と情報が自然に集まる場になるとよい。	B
48	色々ありすぎると SDC の概念がぼやけてしまう。	C
49	新しいコミュニティをコーディネートする場所だと思う。	A
50	SDC の概念が人によって理解が違う。建物なのか機能なのか。(同趣旨ほか2件)	A
51	こどもの幸せを第一に考える必要がある。	C
52	SDC の機能は将来地域の中でこそ必要なのではないかな？	C
53	トータルの方向が見えにくい。	A
54	多様な活動が目に見えるプラットフォームが必要である。	B
55	「理念」だと抽象的になってしまう。「目的」と「手段」の方がわかりやすい。	C
56	指標、達成目標を意識する必要がある(例:SDGsの17の目標、169のターゲット)。	A
57	理念は「みんな」に向けたものであること。	B
58	活動が行き詰まったりした時の相談、支援がしっかりできるようにする必要がある。	B
59	小さい子達のいるお母さん達が立ち寄れる場所になるとよい。	C
60	川崎都民にならないために、様々な世代が活動したいと思う地域になるとよい。	B
61	多摩区における SDC 開設理念についてですが、その標語になっている「みんなが認め合い力を合わせて、みんなが幸せなまちをつくる」についてです。これは、数多く出た項目の最大公約数としてはいいのですが、抽象化しすぎて、逆に、無意味になっています。川崎市多摩区のオリジナリティが全く感じられません。石器時代からいつの時代の、地球上どここの国地域でも成り立つ内容になってしまっています。もっと、世界で一つの多摩区の『独自性』が感じられる夢のある標語にすべきと思われます。具体的には、その点『独自性』を重視して、再度で揉んで、提案していくべきと思われます。(同趣旨ほか1件)	C
62	既存組織で解決できない諸問題を解決する。	B
63	多世代の交流があり元気なまちづくりを目指す。	B
64	社会問題解決モデル City でイメージ UP を図る。	C
65	緑保全団体のネットワークも多摩区の中心的活動である。	C
66	井戸端会議、きっかけづくりで知る、助け合う。	B
67	多摩区まちづくり協議会は、地域のつながりや地域コミュニティの大切さをテーマに地ケアに関する講座やワークショップを開催してきた。「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」では、地域包括ケアシステム推進ビジョンの取組をコミュニティ施策の視点から、相互補完的に充実させる位置づけであることと記載されていることなどからも、SDC の開設理念に「地域包括ケアシステム」のポイントである「自助」「共助」の必要性などについて加えてほしい。	A
68	新たに何か箱物を作ることを想像している人が多いが、既存施設(学校・保育園施設)を再活用したり、売り込み方を変えコミュニティをつなぐ場所を複数拠点で考えてほしい。多摩区は地域も広く、登戸駅周辺、生田、中野島、宿河原などそれぞれに中間的な SDC (まちの広場など)があり、交流を図れるような運営も取り入れるべきと思う。	A
69	子育てで支援施設などが老朽化していて、子どもだけが入れる施設になりつつある。大人も入れるようなコワーキングスペースと合体したような設備だと子どもの学童保育的なことも一緒にできたり、子どもと大人の交流接点を持つことが可能になると思う。	C
70	多摩区における SDC の開設理念に障害者について記載されていない。	A

「4. SDC の基本的機能と具体的な取組について」に関すること

(1) 多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る

No.	意見・質問要旨	区分
71	多摩区内で活動している様々な団体個人を発掘する必要がある。 (同趣旨ほか2件)	B
72	個人や団体が持っている特性を知る仕組みが必要である。 (同趣旨ほか3件)	B
73	地域のたくさんある NPO を把握、共有、連携を推進できる機能が必要である。 (同趣旨ほか1件)	B
74	町内会・自治会を通して地域の人材を探すのがよいのではないか。 (同趣旨ほか1件)	C
75	具体的に今ある多摩区の既存市民活動団体を一覧にし、ネットワークをつくり、つぶやき（各団体の困っている事等）として出してもらうのがよい。	C
76	新たなボランティアなどで人々の関心を引きつけるのがよい。 (同趣旨ほか1件)	C
77	何ができるかを考えるための集まりがあるとよい。 (同趣旨ほか2件)	C
78	退職者の集まるサロンがあるとよい。	C
79	子育て中のママのスキルを収集・活用するとよい（お茶会やランチ会で）。	C
80	子・老・障・外、様々な人達共同のイベントがあるとよい。	B
81	人間関係づくりには、飲む・食べる・作るの3要素が不可欠ではないか。	C
82	経験をかくさない形の人“材”リストが必要ではないか。	C
83	様々なスキルをもった人を人材バンクとして登録し必要なスキルを市民活動団体等に派遣するとよい。	B
84	同じ関心分野、志を持つ人をつなぐ（つなげる）人が重要である。	B
85	こどもミーティング（こどもの意見を収集する場）を開催するとよい。	C
86	大田まちづくりカフェのスライド最後から2頁目の図は「土壌」づくりの参考になるので文章で追加するとよい。	C
87	いこいの家はもっと必要。坂道多く、歩いて行けない。	E
88	大学他、若い人の参画、企業参画をどのように促すのか。 (同趣旨ほか2件)	D
89	地域住民への PR が必要である。 (同趣旨ほか2件)	A
90	新たな事業企画について一定期間募集し、審査を SDC の中でして事業化までフォローするとよい。 (同趣旨ほか1件)	B
91	独自性を生み出す努力が必要、それが具体的に見つからないと近隣へ流れてしまう。 (同趣旨ほか1件)	B
92	たくさんの区民が参加しやすい、入りやすい場所づくり（オシャレな雰囲気とか）が必要。	A

(2) 多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする

No.	意見・質問要旨	区分
93	マッチングに際しては、公平性と透明性が重要である。	A
94	ヒト・モノ・カネのマッチングやコーディネートシステムは具体的にどう機能するのか。	D
95	多摩区内企業と人材をマッチングするとよい（子育て中のママ、シニア、時短）。 (同趣旨ほか1件)	B
96	活動をしたい人は多く、支援したい人も多いが、つながらない。コーディネートが不足している。 (同趣旨ほか1件)	A
97	育児期女性のジョブマッチング（プラットフォーム整備）をするとよい。	C
98	シニアが子育て世代を助ける活動があるとよい。	C
99	個人や団体が持っている特性を知る仕組みが必要である（ポータルサイト、人材バンク、リスト作成） (同趣旨ほか2件)	B
100	その他のアイデアで「助成金対応」とあるが、何をする事業なのか。	D

No.	意見・質問要旨	区分
101	様々な活動を進める為の資金をどの様に集めるかが大事である。	C
102	多摩区へのふるさと納税を活動団体へ分配するとよい。	E
103	すでに中間支援をやっている団体とつながり情報共有する必要がある。	B
104	地域との連携が必要である。	B
105	団体の交流会を開催するとよい。	B
106	障害事業所への技術提供があるとよい。	B
107	障害者事業所がもっている強みと地域のニーズをマッチングするとよい。	B
108	経験を自慢する機会があるとよい。	B
109	誰でも参加できるとよい（障がいの有無、LGBT等）。	B
110	ヒト、モノ、カネの他に「場（場所）」が必要である。 (同趣旨ほか2件)	B
111	マッチングを長期的視点でマネジメントするならば、入れ替わるスタッフの「暗黙知」ではなく、ICTツールを団体として運用した方がよい。	C
112	企業に賛助会員になってもらうとよい。	C
113	食品廃棄物のリサイクルの仕組み（町角冷蔵庫）があるとよい。	C
114	学校（児童・生徒）への参加促進（中学校部活の制限）を働きかけるとよい。	C
115	まちのひろばの組織には、町内会・自治会の役割が重要である。	B
116	必要な人に必要な情報を届けてほしい。	B
117	多摩区まちづくり協議会では、毎年「まちカツ！」を開催し、市民活動団体の発表と交流の場を設け、広く区民に知ってもらうとともに、団体同士の交流が図られるなどの効果が現れている。市民活動団体の活性化を図るためには、活動発表や交流する場が必要であると考えており、SDCにおいても毎年「まちカツ！」のような区内の市民活動団体の活動発表、交流会を開催してほしい。	A
118	ヒト、モノ、カネの提供者の情報収集を行い、マッチングやコーディネートするシステムを作る「あげます・くださいサイト」の運営、各団体が得意とするものの情報発信、マッチングイベントの開催などは、SDGsを進めるのに、有効だと思う。	B

(3) 地域課題の解決を目指した社会実験の展開

No.	意見・質問要旨	区分
119	地域課題の調査をどのように実施するのか。 (同趣旨ほか2件)	D
120	優先的に取り組むべき課題をどのように決定・選出するのか。	D
121	困りごとのワンストップ相談窓口は必要（きちんと専門家につなげられる所）である。	B
122	問題のリサーチから始めるべきである。	B
123	悩みを気軽に話せる関係作りが必要である。	B
124	高齢者のみの世帯が増えると予想されるが生活相談、心の悩み等相談できる場が身近にほしい。	C
125	外国人の居住に関して、住居が決まってすぐに情報提供できる場所がほしい（安心感を与えたい）。	C
126	登戸の町の未来がどうなっていくのか。住む人々が現状では見えにくい。	C
127	多摩区の弱みは何か。	D
128	弱みとして、坂が多いのは不便だが、坂にスポットを当てて名所にできないか（例：ピクニックタウン、長尾台のコミュニティバス）	C
129	町会・自治会との連携が必要である。 (同趣旨ほか1件)	B
130	町会の行方が心配である。	C
131	小中学校の子どもたちから地域の勉強をさせるべきである。	C
132	小学校登校前に朝食抜きの子供が多いという現実をどうするか。	C
133	まち全体を歩行者天国のようにした遊びや（道遊び）交流会を開催するとよい。	C
134	こどもが中心となる活動や取組（防災イベントなど）があるとよい。	C
135	こどもと老人の施設を融合（合体）できないか。	E
136	空き家を活用できる様な制度作りが必要である。 (同趣旨ほか4件)	C

No.	意見・質問要旨	区分
137	川に囲まれているので、防災対策（水害など）に取り組む必要がある。	C
138	防災を視点としたネットワーク作りをするとよい。	C
139	社会人（会社勤め）の方を活動に巻き込む仕組みづくりが必要である。（例：push 型情報発信）（同趣旨ほか1件）	B
140	若い人が町に関わりやすくなるようなイベントがあるとよい。	B
141	外国籍の人たち、障がいの人たちも参加できるバリアフリーな活動があるとよい。（同趣旨ほか1件）	B
142	不登校の子の居場所があるとよい。	C
143	ひきこもりの人たちも気軽に参加できる活動があるとよい。	C
144	おもしろいと思える活動が必要である。	A
145	三田地区にある KC センター（の活用）がうまく機能していないので、不満である。	C
146	全市の共通課題について、区外からのアプローチもできるようにすべきである。	B
147	小さく生んで大きく育てる取組方法を導入するとよい。	B
148	社会問題解決のモデル city として（例：食品ロス問題＝空き家・アパート、子ども食堂など）。	C
149	住みよいまちづくりを進めるためには、地域の人々が自分たちのまちの課題を発見し、解決につながる取組が生まれる仕組みが必要である。多摩区まちづくり協議会では、地域イベントに出展して「出張たまサロン」と称して地域の課題に関して簡単なアンケートを行ったり、「たまサロン」と称して、地域の課題を出し合い、意見交換する場を設けたりした。SDC の取組においても、地域の課題を吸い上げ、まちの新たな課題を発見し、解決する仕組みを作してほしい。	A
150	多摩区まちづくり協議会では、メンバーが自ら地域の課題を見つけ出し、プロジェクトを立ち上げ、将来的には自立することを目的に自らその解決に当たってきた。多摩区の「磨けば光る多摩事業」は、地域課題の解決だけでなく市民活動団体の活性化にも有効であると考え、引き続き同事業のように、市民活動団体が感じている地域課題解決の提案を SDC が受け、それを支援する仕組みを作してほしい。	A
151	多摩区まちづくり協議会では、中間支援的機能の拡充の一環として、「多摩★まち Café（活動団体の情報発信並びに区民との交流の場）」や「多摩★まち大学（民学産公と連携したまちづくりに関する学びの場）」を開催し、区民のまちづくりへの意識の醸成やノウハウの共有を図ってきた。このような取組が地域課題の解決につながることから、今後も引き続き、「多摩★まち Café」や「多摩★まち大学」のような取組を続けてほしい。	A

（４）地域課題への専門的支援

No.	意見・質問要旨	区分
152	専門家、技術者の集め方をどうするのか。	D
153	町内会・自治会とのマッチング方法をどうするのか。	D
154	どんな知識を求められるかによって、お手伝いできることもあると思う。	C
155	プロボノの活用と専門家からのアドバイザリングは、無料ボランティアで行うのか。	D
156	地域人材（プロボノワーカーなど）のバンクづくりには興味がある。	C
157	普段から地域間でのつながりを持つことが、「共助」力の強化につながる。	A
158	認知症の暮らしの困りごとに対応できる場所など、相談窓口の設置が必要である。	C
159	川崎に住む人の多摩区内での紹介やネットワーキング（士業とか）するとよい。	B
160	子育てへの支援が必要である。	B
161	常設プレーパークがあるとよい。現状、川崎の子が思いっきり遊べない。	C
162	企業ともっと積極的にコラボし、つながるとよい。	B
163	活動地域と SDC 拠点が離れていても、サービスを享受できるようにすべきである。	B
164	医療方面の相談窓口を充実（他との連携含む）するとよい。	C
165	3 大学との先生と話し合うとよい。	B
166	市民団体の困りごと（資金問題 助成金の案内、申請事務の手助け）に対応できるとよい。（同趣旨ほか1件）	B
167	任意団体は信用を得るのが難しい。行政の支援が必要である。	C
168	いろいろな団体を行政が紹介する手段を取ってほしい。	C
169	子育て世代が喜んで移住、住み続ける施策が必要である。	C

No.	意見・質問要旨	区分
170	防災イベントの開催によって防災スキルを高める必要がある。 (同趣旨ほか1件)	C
171	専門的・技術的支援のできる地域人材（プロボノワーカーなど）バンクをつくり、各団体からの依頼に応じて紹介することは、積極的に行った方がいいと思う。	B
172	専門的・技術的支援ができる地域人材は、多くないと思う。身近に少しだけなら手伝えるような人、知恵を持った人への協力などは、まだそういう層にアクセスできてないだけな気がする。プロボノでさえまだ知らない人が多く、プロボノに発展するような「まちの課題を解決できるような仕事化する」ことも考えていかなければならないと思う。	C

(5) 地域で人を育てる仕組みをつくる

No.	意見・質問要旨	区分
173	人員・人材の発掘・開発について、この事業はこのような能力を持つ人がいない、少ない。	C
174	社会に貢献する人材をどう育てるのか。	D
175	人材育成には、行政・社協・小中高での講習会の開催が考えられる。	C
176	人材育成の場が少ない。 (同趣旨ほか1件)	C
177	専門家のボランティアをベースにしたメンターシステムをつくるのがよい。	C
178	事務方の人材と現場方の人材の育成が必要である。	C
179	地域の小中高などの学生、若者が地域で活動していないことが課題。ボランティア等のマッチングが必要である。	B
180	地域と複数学校間のイベントコーディネートを行うとよい（消防や警察も）。	B
181	大学生が地域にインターンというのは多いが、市民がもっと大学で学べる場（地域について）があってもよい。	C
182	大学の中に地域の環境、農業について学ぶサステナビリティ講座があると市民との連携ができると思う。	C
183	若い人材の計画的育成や地域に住む大学生の活用を図るとよい（チャンスは高3生）。	B
184	子ども、学校と連携したSDC活動（例：学校訪問）を行うとよい。	B
185	高校での町とのつながりが深いと感じる。小中学校・大学のように、ボランティアのようなものを高校生にもっと依頼してもよいのではないか。	B
186	地域の大切な公共施設「学校」の位置付けはどうするのか。	D
187	市民団体の困りごとは高齢化。若い人の人材育成が必要である。	B
188	社会人教育への一般人の参加が必要である。	C
189	農業体験を行うとよい。	C
190	様々な方々（障害、海外ルーツ他多様な方々）が住んでいることを住民として知る、支え合える場をつくる必要がある。	C
191	子どもが楽しく参加できる活動があるとよい。 (同趣旨ほか1件)	A
192	若い世代が地域の活動に興味を持てる取組が必要である。 (同趣旨ほか1件)	A
193	子どもと高齢者の交流の場を作ることが必要である。 (同趣旨ほか1件)	B
194	20代、30代、40代が活動出来る場があるとよい。	B
195	取組のアイデアとして、お父さん向けのキャンプスキル講座が考えられる。	C
196	ハンディキャップのある方の支援が必要である。 (同趣旨ほか1件)	B
197	新たに取り組む事業を区民へ発信する機能や紹介する機能が必要である。	C
198	年齢やライフステージに応じた、地域で活動するための人材養成塾の開講と運営は、例えば、民生委員児童委員のなり手がなかなか見つからずに困るということを解決することにも役立つと思うが、それ以前の問題解決に役立つかもしれないという期待がある。何らかの理由で就労できずに、もしくは、何らかの理由で一度は就労したのだが一度離職して、そのあとずっと再就職できずに40代50代になってしまったという人でも、自分の生きるための方法を見つける手助けができるかもしれないと思う。そのためには、例えば、「だいjobセンター」のようなところを多摩区にも開設・運営していただけたらと思う。	C

(6)「まちのひろば」への支援

No.	意見・質問要旨	区分
199	地域にふらっと参加できるような“場”があるとよい。	B
200	スペースの調査、情報収集・整理をどのように行うのか。	D
201	地域交流の場所はたくさんあるが有効に活用されていない。	C
202	高齢者が居場所になっているカフェと子ども・子育て世代が場所を共有するとよい（「よい」ごちゃごちゃ感）。	C
203	ネットワーク環境が整備されたコワーキングスペースとして開放される施設があるとよい。	C
204	サテライトオフィスとしての利用できる場所があるとよい。	C
205	長生きするのが楽しくなるよう、色々相談できる場所があるとよい。	B
206	区役所や料理室、コミュニティスペースなどを活用し、「自炊力」の向上として手軽に料理をできる場が増えるよい（特に男性）。	C
207	外国人が気軽に集まる場所があるとよい。	B
208	子どもを遊ばせながら大人が話をできる場所があるとよい。	C
209	大きな場に入りにくい。ニーズに合ったたくさんの場づくりが行われるとよい。	C
210	コンビニ、ミニスーパー、個人商店等の活用も考えられるのではないかな。	C
211	まちのひろばとしては、公園や移動図書館が考えられる。	C
212	無料で休める場所がほしい（コミュニティ的）。	C
213	地域に集まる場所が欲しい（民生委員活動、会食会など）。（同趣旨ほか2件）	B
214	気軽に使える地域施設が多摩区にはない。	C
215	就職活動についてなど、地域に住んでいる様々な職種の方と意見を交換する場が欲しい。	C
216	不動産屋の情報提供と発信があるとよい。	C
217	多摩区の地域公共施設の偏在を解消できるか。	D
218	登戸、向ヶ丘遊園周辺は区画整理事業を展開しているが「フツウの公園」ができ現状面白くない。有益な“まちひろば”になってほしい。	C
219	区画整理によりできた空き地の活用（期間限定にはなるが有効活用）が考えられる。	C
220	管理運営協議会に権限を移譲し、自主管理による公園の活用促進を図るのがよい。	C
221	各分野のノウハウの育成（支援・学びの場）	B
222	行政・地域包括支援センターの応援でカフェを開催するとよい（高齢者の話し相手）。	C
223	人・資金・場所にみんな苦勞している。	B
224	小さな単位のカフェへの支援が必要である。（同趣旨ほか1件）	B
225	公的な場所を使うことができるとよい。（同趣旨ほか2件）	B
226	町内会等ですすでに行われているイベントや事業と調整するのか。	D
227	生活支援分野を担うまちのひろばを構築する必要がある。	C
228	「まちのひろば」になりうる場所はすでにあちこちにある。人手や運用の考え方が問題である。	B
229	若い人が参加しやすい、活用してみたいとする雰囲気が必要である。	B
230	世代間の交流が出来る場があるとよい。	B
231	「まちのひろば」に集える人は問題なく、家庭にこもりがちな人達がいかに楽しんで来られるかを考える必要がある。	C
232	「まちのひろば」への参加者には偏りがある。これをどうするかが問題である。	C
233	「まちのひろば」はSDCで把握して一覧化するのか。	D
234	私達の地域で一人暮らしの高齢者が多く、話し相手はテレビだけという現実をどうしたらよいか。	D
235	地域の環境に合わせたまちのひろばが必要である。（同趣旨ほか1件）	B
236	各地域においてコミュニティの再構築・強化を図り、支え合いの互助活動の組成を支援する場として「まちのひろば」が拠点となり、区内に多く組成されることが必要。「まちのひろば」を拠点に介護予防活動を行うことで、長野県御代田町の取組を参考に、介護認定率の低下、介護度の重度化を防止することに繋げる。	C
237	「まちのひろば」への支援強化が必要。人口1000人に1ヶ所必要という説があり、この説に基づくと、多摩区の場合、200ヶ所程度必要となる。公的な施設・自治会会館・町会館等の有効活用が望まれる。	C

No.	意見・質問要旨	区分
238	SDC そのものというより、多摩区の登戸宿河原周辺についての、住民の希望の一つとして、宿河原小学校区の児童の自由に遊べるスペース（ボール遊びのできる公園など）が無いということで、それをどこかに設置してもらえたらという希望が、私の知っている範囲内でも6～7年以上前からある。	C
239	ほかの区では盛んにコミュニティカフェなどの取り組みをされているが、多摩区は「ケアカフェ」というすこし普段の生活からは離れたようなイメージを持たれているかもしれない。多摩区は、川崎の中でも自然も多く、クリエイティブな層も在住している割には働く場所や企業につながるイメージがそれほどない。地元の人が協力するようなスペースが出来ていくと嬉しい。多摩区にそういう場所ができるといろんな人と交流も盛んになると思う。	B

(7) みんなに届く情報発信

No.	意見・質問要旨	区分
240	情報発信について、SNSを活用して、区民に届きやすいようにしてほしい。	B
241	広報の支援をしてほしい。SDCに使いやすいチラシギャラリー的な機能があるとよい。 (同趣旨ほか1件)	B
242	「団体登録」「回覧板」など、これまでのものはハードルが高い。	C
243	SNS等は高齢者にも有効なのか。	D
244	サイト・ホームページは誰が作り、誰が運営するのか。	D
245	多くの区民に届くには、まちの情報誌はよい。	B
246	区のウェブサイト内にSDCの特設ページを作り、毎週更新するとよい。	C
247	多摩区に特化した情報ポータルサイトの構築・運営について説明があるとよい。	C
248	他地区の活動情報を共有できる仕組みがあるとよい。 (同趣旨ほか1件)	B
249	SDCが持っている情報を発信すべきである。	B
250	多摩区イベント情報を集中的に管理し発信するとよい。	C
251	多摩区の地域情報を発信するFM局やラジオ局がほしい。	E
252	多摩区のまつりマップづくりをするのがよい。	C
253	情報発信の手法として誰でも理解できる内容としてほしい。 (同趣旨ほか1件)	B
254	地域課題の解決に向けて活動しようとする人に場所と情報発信の支援をすれば、とりあえずスタートできる。	B
255	バラバラな情報のとりまとめを進めた方がよい。 (同趣旨ほか1件)	B
256	今よりもっと情報発信して、幅広い世代に情報を届ける必要がある。 (同趣旨ほか2件)	B
257	多摩区を小田急線を境にして区域ごとに活動情報を知ることができるようにするとよい。	C
258	名称にこだわりすぎ(例:SDSとSDC)。住民に説明が難しい。	C
259	区役所は高くて目立つのでプロジェクションマッピングを行うことができないか。ドラえもんを使うことで外国人客を集めることができる。	C
260	多摩区まちづくり協議会の存在・活動を区民に広く知ってもらうことは長年の課題であった。今回のSDC立ち上げに関しても、まちに住む多世代の方々が希望のシナリオの取組に参加しないと実現しないと考えられるため、SDC自体やその取組、希望のシナリオを多くの区民に知ってもらえるよう、適切な広報・周知活動の仕組み作りをしっかりとってほしい。	B
261	ほかの区に比べ、FacebookやSNSを利用した発信が少なく、市民活動している方々の発信を、意図的に探しに行かないと知れないことが多い。	C

(8) 多摩区内の人と人をつなぐ

No.	意見・質問要旨	区分
262	おもしろいことをやる。おもしろくないと来ない。	A
263	イベント・カフェ・食堂は誰が企画し、誰が運営するのですか？	D
264	交流企画イベントが欲しい。 (同趣旨ほか1件)	B

No.	意見・質問要旨	区分
265	地域間をつなぐコミュニティバスが必要である。 (同趣旨ほか2件)	E
266	商店街の活用、商店とのコミュニケーションがあるとよい。	C
267	たき火ができると人が集える。	C
268	今日みたいなフォーラムや現場視察の機会があるとよい。	C
269	核家族化が進む中、世代間交流の場づくりが必要である。 (同趣旨ほか4件)	B
270	駅前にみんなで集まれる場所があるとよい。	B
271	親子がいつでもいれる場所があるとよい。	B
272	高齢者が集える場所があるとよい。 (同趣旨ほか1件)	B
273	福祉団体のネットワークはあるが他のネットワークとの連携がない。	C
274	創造、アートと他分野(福祉、エコ等)とのコラボで、なかなかつながらない人をつなぐ場をつくるとよい。	B
275	活動の発表の場があるとよい。	C
276	通勤・通学など地域に住んでいない人をどう巻き込むのか。	D
277	他分野の活動・人との「ナナメ」の交流で生まれる活動がほしい。	C
278	産・官・学・民とのつながりの構築が必要。 (同趣旨ほか1件)	B
279	子ども食堂等のイベントなど、今あるイベントを知ってもらおうとよい。	C
280	貸本配達ネットワークや、読み聞かせ派遣などを行うとよい。	C

(9) 多摩区の地域特性を活かした取組

No.	意見・質問要旨	区分
281	向ヶ丘遊園跡地にこども達からシニアまでのあそび場を運営する。 (同趣旨ほか2件)	C
282	生田緑地、向ヶ丘遊園跡地、藤子・F・不二雄ミュージアム、三大学を活用するとよい。 (同趣旨ほか3件)	B
283	生田緑地から駅までの人力車・馬車を運行する。	C
284	岡本太郎美術館を中心としたアートイベント(過去にもあるが)を開催するとよい。	C
285	多摩区は地域的に若い人達が多く住んで居る(若者が活躍できる観点)。	B
286	大学生の街コンを開催するとよい。	C
287	明治大学・平和博物館と連携できないか。 (同趣旨ほか1件)	C
288	地域資源として「登戸の渡し」を活用するのがよい。	C
289	多摩川を遊びながらきれいにし、愛する心を育む。	C
290	多摩の自然特性を結びつける取組が欲しい。各箇所が独立しすぎている。	B
291	川崎市、多摩区のオリジナリティが重要である。	B
292	地域特性を活かすための資源をどのように洗い出すのか。	D
293	地域ブランディングが必要である。	C
294	市民館・図書館・美術館との連携で各々の活動への協力を行う。	C
295	多摩区おもてなし隊を結成するとよい。	C
296	全国発信の多摩区観光ツアーを開催するとよい。	C
297	有名キャラクターとコラボしたイベント開催PRなどを行うとよい。	C
298	マルシェなどによる農作物の販売を行うとよい。	C
299	福祉教育や体験を行うとよい。	C
300	災害時井戸水を供給する家を活用できないか。	C

(10) (1)～(9)以外に関する御意見

No.	意見・質問要旨	区分
301	いろいろな活動のアイデアが書かれているが、どの様に優先順位を付けて取り組むのか。	D
302	広く参加者を集める手段をもう少し考えたほうがよい。	C
303	大森まちづくりカフェ設立までの苦労話も少々お聞きしたかった。	C
304	ゲストスピーチの目的がわかりづらかった。	C
305	総花的よりしぼってスモールスタートで。	B
306	活動と改善効果のみえる化が欲しい（効果、金額等）。	B
307	オープンな議論や運営にすべきである。	B
308	希望のシナリオの実現性は。資金はあるのか。	D
309	コミュニティビジネスはどうか。	D
310	最終的に、市民がSDCを運営すると聞いたが、全てボランティアで運営するのか。	D
311	自治会、子ども会、商店会それぞれの連携はどうするのか。SDCの課題ではないか。	D
312	交通不便地区の課題解決（交通インフラの整備等）に取り組んでほしい。	C
313	駐車場や安く泊められる所。双子、3つ子が増えている。	E
314	生田中学創作活動センターを活用するのがよい。	C
315	多摩区での働く場所を開拓してほしい。	C
316	「希望のシナリオ」の課題と多摩区の地域で抱える課題を層別して優先順位を付けてほしい。地域の現実の課題解決なくして「希望のシナリオ」の実現は不可能	C
317	住みやすい地域づくりのためには、地域活動テーマと行政施策の連動が必要。地域課題解決は地域活動が原点である。行政の施策と連動した一貫性のある課題解決活動が必要であるが、現状は、必ずしも行政の施策と地域の課題改善活動と連動しているとは言えない。市民活動への関心は、低調である。	C
318	SDCの基本的機能と具体的な取組の中に障害者について記載されていない。	C

「5. 開設場所」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
319	せきれい跡地の広さは適切なのか。 (同趣旨ほか2件)	D
320	せきれいで跡地でもよい。ただし交通の便が悪い。 (同趣旨ほか2件)	C
321	せきれい跡地はせまいが便利である。	A
322	最終的にはより広い場所、オープンな形がよい。 (同趣旨ほか3件)	A
323	人の動線、人のあつまる場所がよい。	A
324	将来的には生田上水場跡地なども含めて広く候補地を検討すべきである。	C
325	市住宅公社の大きな空室（事故住宅）も考えられる。	C
326	駅に近い方がよい。 (同趣旨ほか2件)	B
327	廃校など遊休施設を活用できないか。 (同趣旨ほか1件)	C
328	商店街の中がよい。	C
329	生田緑地の一部を活用できないか。	C
330	地域で興味ある人に呼びかけてみてはどうか。	C
331	SDCは1ヶ所にとどめない。 (同趣旨ほか1件)	C
332	サテライトがあってもよいのではないか。 (同趣旨ほか1件)	C
333	事務所は1つでも活動の場は複数あっても良いのではないか。既存のこ文、いこいの家など分室をつくる。	C
334	場所はなくてよい。毎回違ってよい。	C

No.	意見・質問要旨	区分
335	生田中学創作活動センターをもっと活用したい。 (同趣旨ほか1件)	C
336	横浜市都筑区の北山田中学校のコミュニティーセンターをモデルにするとよい。	C
337	区画整理の土地にSDCを設置することも考えられるのではないかな。	C
338	休憩できる場所がほしい。	C
339	「せきれい」の後のスペースか、アトリウムの一部に、自由に老若男女が憩えるスペースを作り、たまにはイベントなども行い、気軽に声を掛け合える関係を作ったらよい	C

「6. 運営についての考え方」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
340	中・高・大学生にどのように関わってもらえるのか。 (同趣旨ほか2件)	D
341	人が集まるためにどうしたらよいかな。	D
342	不景気の中、退職者をどうひきつけて活動してもらえかがカギだと思う。	C
343	コミュニティ横断する人が必要である。	B
344	運営団体としては事業ごとにその分野に詳しく、志のある方が理事として推進すべきである。	C
345	「市民主体」の市民をどうやって選ぶのか。 (同趣旨ほか3件)	D
346	若者、子育て、シニア世代、ハンディキャップのある方など幅広い方で運営するとよい。 (同趣旨ほか1件)	C
347	みんながファシリテーターになる研修システムが必要である。	C
348	分野ごとの協力が必要である。	A
349	検討会のメンバーが必要な能力も顧みず、運営をいきなりしたいというのはおかしい。	C
350	SDCの検討会は年齢層高い。若い人が入らなければ分断する。	C
351	これまでの市民活動の蓄積や成果は尊重しつつも、特定の人たちが優遇されるような形は避けるべきだと思う。	A
352	運営方法として、ヒト・モノ・カネを稼いでくる部門と分配を決める部門をキッチリ分ける必要がある(税金のお手盛りにならないように)。	C
353	分配を決めるのは運営スタッフでなく、第三者にまかせる必要がある。また、規則をつくる必要がある。	C
354	SDCに関わる人達が少しずつでも収入を得られる事業展開を。	C
355	きっちりとした経営計画があるから小さな出発になる。 (同趣旨ほか1件)	A
356	人、モノ、金がないと団体が活動できない。良いものも続かない。 (同趣旨ほか7件)	C
357	フリーペーパーの広告収入を得られないかな。	C
358	休眠預金活用の必要性はどうか。	D
359	地域通貨を活用できないかな。	D
360	行政やNPO法人など既存の団体の一部として運営する。	C
361	運営スタッフは、はじめは無給でも有給にしていかなないと続かない。	C
362	運営組織の機能がはっきりしていないのに、その形態(NPOとか)が議論されるのはおかしい。	C
363	運営組織のほかにもらう側は賛助会員などになっていただき、その意見を反映するとよい。	C
364	いずれ法人化を目指すとしてもまずは「柔軟さ」を第一に考える必要がある。	B
365	自主・自立の市民主体の運営の定義(ゴール)が少しあいまいに感じる。 (同趣旨ほか2件)	C
366	いつ止めるか、サンセット方式で区切りをつくっておく必要がある。	A
367	開設場所にはスタッフとして誰がいるのか。区役所職員はどのような立ち位置なのか。	D
368	空き家、空き地利用にはオーナーと利用者間の行政のコーディネートが必要である。	C
369	各団体の連携があると、お互いに活動が広がるので、連携がもてるようにするとよい。 (同趣旨ほか1件)	B

No.	意見・質問要旨	区分
370	SDC は情報の取りまとめに特化するとよい。	C
371	集まらなくてもディスカス、意思決定できるシステム（MURAL ボード等（ネット会議））を設けるとよい。	C
372	信頼できるリーダーが皆の意見を拾いあげる運営が望ましい。 （同趣旨ほか1件）	C
373	時間軸を入れた事業運営が必要である。	A
374	行政施策をリードする活動をしてほしい。	C
375	多摩区内で実績のある団体に支援してほしい。	C
376	一部に偏らないように運営はコンソーシアムで。	B
377	インターネットや SNS で見える化する活動を行ってほしい。	A
378	会話を大切にしながら熟議を重ねてよりよいものを練り上げていくとよい。 （同趣旨ほか1件）	C
379	運営規則の作成が必要である。	C
380	運営する箱が必要である。	B
381	SDC が多摩区に1つだとしたら、区民みんなに届くためにしっかりとした組織にならないといけない。 （運営費予算必要）	B
382	運営主体は企業からの寄付金や会員管理も考慮し、法人格で運営する方がよい。	C
383	独自予算、責任と権限、交渉力が必要である。	C
384	新たな NPO 法人を設立し、SDC の運営にあたるのが適切。既存の団体では、マンパワーの制約もあり、兼務では SDC の目的を達成することは難しいことから、SDC の活動に特化した組織が望まれる。また、NPO の認証には市が関わることになり、NPO の事業活動及び決算状況について、市としてもその活動内容の把握が可能となる。	C
385	多摩区まちづくり協議会の課題として、委員やメンバー全員が完全なボランティアだったことから、活動の展開や広がりに限界があったことが課題と考える。このため、SDC については、効果的で持続可能な取組を行うためにスタッフは専任であるべきである。また、ボランティアをお願いする場合にも有償であることが望ましい。	C
386	SDC が区民から信頼されるためには、中立的な立場であることや公益性があること、また、決定のプロセスや会計などの透明性があることが必要である。このため、定期的に区民からチェックや評価を受ける仕組みを作してほしい。	A
387	毎年開催される「まちカツ！」では、参加団体の発表と交流の他に、多摩区まちづくり自身を広く区民や区内の市民活動団体に知ってもらうため、1年間の活動を発表した。このため、SDC も広く区民や区内の市民活動団体に知ってもらうために毎年「まちカツ！」のようなイベントを開催することが必要であると考えます。	A
388	活動体制の見直しについて。行政（組織）と市民（個人）の中間機能として町会・自治会（地域機能）を加えてほしい。地道に活動する「町会・自治会組織」ともっと連携しつつ地域の課題に対する活動の環を広げる必要がある。町内会には優秀な人材が多い。	C
389	委員の人選について。組織推薦、一般公募者等頭数は充足されても、具体的な活動までつながる人は少ない。また、考え方の幅が広く異なり、結論が出ない。地域の実情に詳しい実務家が少ない。また、女性の参画を強化してほしい。	C
390	活動テーマの絞り込み、委員会一任では困る。行政が参画して、ある程度優先順位を決めてほしい。テーマ別の解決活動と地域に定着する仕組み作り。	C
391	活動資金について、地域活動助成金の交付形態をとる。具体的なテーマに対して、参加者を公募する。活動助成金を交付する。「かわさき市民活動センター」に集中している助成金を、地域分散型にして多摩区のボランティア活動助成金とする。（地域活動のための資金支援）	C
392	本当に市民主導で、収支も成り立つような自立した組織を目指すのであれば、ボランティア活動している様な人材を、無責任な立場で集めても意味はなく、ビジネスセンスのある起業経験のある様な人材が、理事として自らの責任において事業計画を立案する必要があるだろう。例えば、起業アイデア／ビジネスプランのコンペを開いて、優秀な企画書を作った人に団体立ち上げを担って貰う、等の方法をとるしかないのではないだろうか。	C

No.	意見・質問要旨	区分
393	自立した団体の設立を目指すのであれば、1つの団体にてすべての機能を実現するのは難しいだろう。いきなり、独立採算の複数の事業本部制を導入する大企業をゼロから起業する様なイメージだ。組織運営が複雑となるため、まずは単独事業から始めて事業内容を増やしていくか、別々の団体として並行して立ち上げるかを検討すべきだろう。検討会にて指定管理者制度に基づいて運営されているものを事例として扱っている人がいたが、自立した団体設立という観点では参考にならないのだが、その違いが分かっているのかどうかも怪しい。大森まちづくりカフェのご講演を聞いても、最初からビジネスを強く意識して団体を立ち上げて活動していかないと収支を成り立たせるのは難しいことが分かる。	C
394	「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」には、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の制度が重要な役割を果たすので、多摩区において制度化して設置し、活用するようにお願いしたい。	C
395	SDCを持続するためには、人材は多いほどいいかもしれないが、一般の人たちの社会の役に立ちたいという認識が、もっと強くなっていかないと、人材の確保は、難しいかもしれないと思う面もある。いろいろなことに関わり、少しずつ地域のことやいろいろな人の事情を知り、地域全体でいい方向に進んでいけるような関係を作っていく、と思える人が圧倒的に増えれば、人材の確保は、今よりはできやすくなるのではと思う。人々の「最低限、自分の家の中が無事であればそれでいいのだ」という意識を「自分の家のことは大事だが、少しのお手伝いで誰かを助けてあげられるなら手伝ってもいいですよ」という風に変えていけると、社会は変わっていくかもしれないと思う。その意識を変えていける方法も考えられたらいいと思う。一般の方々は高齢化が急速に進んでいるという意識はあるのか。そのあたりも人々の、社会の役に立てるようになりたいという意識を変えていく材料になるかもしれないと思うが。	C

「7. 今後の検討の進め方」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
396	「区民が自主的につくっていく」という視点が大切。多くの区民が関わられるように進めるべきである。	A
397	最終目標（ムーンショット）がパンフの内容ならそこまでの中期計画（10年？）	C
398	いつまでに何をというアウトプットイメージはどうなっているのか。	D
399	「ありたい姿」を多くの人が共有し、それを実現するための道筋を描く必要がある。	A
400	施策の優先順位づけはどうなっているか。	D
401	多摩区の具体的な課題、ニーズ調査のためにフォーラムや現場視察を行う必要がある。	C
402	これから作っていくというよりも、すでに活動しているものを集約していくということでもいいと思う。	C
403	まずはやってみて、小さな積み重ねから大きなパワーにつなげていく。1つモデル事業を決めて、検討する中からノウハウを蓄積するのがよい。	A
404	利害関係を考えずにまずは話し合いが必要である。 (同趣旨ほか1件)	A
405	まちにどんなものがあたらよいか、自分のまちの好きなどころなど、学校と協力してもらってアンケートを行い、若者、子どもの意見を聞くとよい。	C
406	ゼロからではなく。既にある取組や成果の上にデザインしていく発想が必要である。 (同趣旨ほか1件)	C
407	既存にあるシステム、仕組みとの関係がわかると嬉しい（例：別物なのか、補充するものか）。	C
408	地域特性の「切り口（＝資源）」は何か。地域資源の洗い出しと把握から構えることが大切である。	C
409	コーディネート機能と、そうした人材育成のための機会が必要だと思う。	A
410	まちづくりに関心のある住民にSDCの考え方、基本方針をどれだけ理解を広げることが重要かと考える。	A
411	地域包括ケアシステムの一環としてSDCと社協、地域振興課との関係はどうなっているか。	D
412	自治会・町内会への支援機能はSDCにどのように持つのか。	D
413	まちづくり協議会がなくなってSDCができると聞いたが、移行はどうなるのか。	D
414	SDCの年間予算はどの程度か。活動内容、スタッフ体制などに影響する。	D
415	区サポートは中長期的に必要不可欠である。	C
416	SDCと行政の距離感「緊張感」が必要である。	C
417	特に多摩区では、「みんなで考えよう」感がなく、だれか代表者が集まって会議をして決まっていって感じが非常に強く、SDCの開設に関して、もっと広くいろんな人に問いかけることがあってもよいのではないか。このままいくと、おそらく住んでいる住民からは、「知らないうちにSDCというものが出来上がった」→「自分とは関係ない」にならないようにしてほしいと思う。	C

No.	意見・質問要旨	区分
418	運営について考える上で、① 組織に求められる機能、② 組織のあり方、③ 必要とされる運営スタッフの能力を、まず検討すべきであると思われます。順番はあくまで①が先で、組織がどうあるべきかは、求められる機能により異なってくるからです。機能がはっきりしないうちに、NPO、公益財団法人、任意団体とか、コンソーシアムがいいとかは決められません。ですから、①組織に求められる機能をまず確定させて、次に②と③が決まってくることになります。そして、③必要とされる運営スタッフの能力が決まってから、初めて誰にやらせるかということになります。	C

その他コミュニティ施策に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
419	各中学校単位でコミュニティーセンターを創る。	E
420	多摩区にはSDCより前に行政がやらなければならないことがある。川崎市のコミュニティ施策の基本的考え方とあるが、頭の中で考えた空想のイメージばかりで、現実の川崎市内の市民活動、地域活動の現状や住民の願いや中高年市民の地域課題を反映していないのではないかと。希望のシナリオに、人が集まり・学ぶ場である住民が最も身近に利用できる公民館施設（市民館）や学校施設の言及もなく、最も身近な居場所である公共コミュニティ施設の役割を無視し落としているのは残念である。	C
421	川崎市全体のコミュニティ施策の新構想・計画を考えるならば、これまで戦後50年以上も地域で日常生活に即して、住民が自発的に実施してきたコミュニティ活動、学習活動、住民自治活動の活動実績、歴史をまずどう理解して評価するのか、否定するのか議論し新たな施策のデッサン論議を始めなければならないのが順序と思うが、市コミュニティ施策の学識・研究者の議論を見ても、生涯学習施策の検証やコミュニティ施策の評価は全く行われているようには見えない。	E
422	多摩区の地域で市民が困っている地域課題とは第1に地域活動をするにも活動場所が身近にないという場の不足の問題が共通して存在するにも関わらず、川崎市のコミュニティ行政の対応は地域住民の要望を無視するか教育行政の問題に矮小化しているようで、市民の自己責任で民間の場所をさがしないとタカをくくっているようだ。生田出張所建替え時に分館併設という好機をつぶしてしまった市であったのが残念。予算がない金がないなどいわずに住民の要望している身近で、使いやすい生きがいの持てる居場所、生涯学習、コミュニティ機能のある公共施設を土地を探してでも旧出張所単位に学びのできる場所を確保すべきではないか。	E

多摩区におけるソーシャルデザインセンター開設案
令和元(2019)年11月

川崎市多摩区役所まちづくり推進部企画課
〒214-8577 川崎市多摩区登戸 1775-1
電話：044-935-3147 FAX：044-935-3391
E-mail：71kikaku@city.kawasaki.jp

[多摩区ホームページ](#)

「参加と協働によるまちづくりの新たなしくみ」の検討



